

平成 29 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート  
(平成 28 年度の実績評価)

作成日 平成 29 年 7 月 19 日  
更新日 平成 年 月 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐむまちの形成	施策主管課	教育委員会 教育総務課
	施策No.	21	施策名	学校教育の充実	施策主管課長名	清水 学
施策関連課名				市立学校給食センター、学校教育推進課		

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 児童 生徒 学校施設 対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) ○児童・生徒に対し、自ら学び続ける意欲と確かな学力を身に付けさせる。 ○いじめや不登校などの諸問題に取り組み、児童・生徒の教育を受ける機会を保障する。 ○学校施設の老朽化への対応や設備の更新に取り組み、安全安心な教育環境をつくる。 意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標
---	--

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
① 対象指標	ア 児童数	人	見込み値	4,551	4,357	4,247	4,143	4,032	3,887	3,741
			実績値	4,597	4,415	4,298	4,182			
	イ 生徒数	人	見込み値	2,398	2,411	2,289	2,291	2,261	2,221	2,187
			実績値	2,342	2,356	2,299	2,267			
	ウ 学校施設数	校	見込み値	22	22	22	22	22	22	22
			実績値	22	22	22	22			
② まちづくり指標	A 学校生活が「楽しい」と回答した児童生徒の割合	%	目標値		90.0	89.2	89.4	89.6	89.8	90.0
			実績値		88.8	88.9	91.3	90.7		
	B 授業が「分かる」と回答した児童生徒の割合	%	目標値		90.0	89.2	89.4	89.6	89.8	90.0
			実績値		88.5	86.4	90.3	90.4		
	C 不登校児童・生徒の数	人	目標値		74	112	111	110	109	108
			実績値		113	90	62	81		
	D 認知されたいじめの解消率	%	目標値		未設定	91.2	91.6	92.0	92.4	92.8
			実績値		90.3	76.0	91.2	96.8		
	E 学校施設の非構造部材の耐震化工事実施割合	%	目標値		未設定	16.0	32.0	48.0	64.0	80.0
			実績値		0.0	0.0	13.6	36.4		
まちづくり指標設定の考え方 【まちづくり指標の測定規格(アンケートか、統計か、数式など)】				<p>A: 学校生活の充実度を示す。 【学校評価における児童・生徒アンケートの設問『学校が楽しいですか』において、「楽しい」と回答した児童・生徒の割合】</p> <p>B: 学習環境の充実度を示す。 【学校評価における児童・生徒アンケートの設問『勉強は分かりますか』において、「わかる」と回答した児童・生徒の割合】</p> <p>C: 学校生活への適応度を示す。 【月ごとの長期欠席児童生徒調査より算出】</p> <p>D: 認知されたいじめが解消した割合を示す。 【認知されたいじめの解消率=いじめが解消した件数÷認知されたいじめの件数×100 【出典: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査】】</p> <p>E: 学校施設の整備状況を示す。 【非構造部材耐震化実施学校数÷市内22校×100】</p>						
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)				<p>A: 各学校でおこなっている学校評価より平均値を算出し、5年間で約2%の増加を目指す。</p> <p>B: 各学校でおこなっている学校評価より平均値を算出し、5年間で約2%の増加を目指す。</p> <p>C: 市内22校の月ごとの長期欠席児童生徒調査から、5年間で5人の削減を目指す。</p> <p>D: 家庭との連携の中で速やかに対応し、5年間で解消率2.5%の向上を目指す。</p> <p>E: 市内22校の整備計画に基づき10年間で実施する。</p>						

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	218	210	220	213	195		
関連事業予算額(単位:千円)	1,711,338	2,634,033	3,200,688	4,302,690	3,106,453		
(予算額の内訳)	国庫支出金	4,204	61,380	172,561	193,970	65,483	
	県支出金	456	1,111	1,943	1,310	1,289	
	地方債	116,700	913,100	1,190,900	2,260,600	1,317,500	
	その他	417,646	418,099	401,125	394,058	370,853	
	一般財源	1,172,332	1,240,343	1,434,159	1,452,752	1,351,328	

#### 4 評価結果(施策の有効性評価)

<p>① 目標達成度評価(目標値と実績値との比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>※左記の理由</p> <p>○A,B,C,Dについては、小中学校と連携しながら事業を推進していくことによって、目標値を達成することができている。個々の事業の取組において、年度途中での評価を踏まえ、校長等への働きかけを行っていることが功を奏している。</p> <p>○Eについては、事業計画の前倒しに取り組んだ結果、補助事業として採択され、円滑かつ安全性の高い事業実施により目標値を上回る成果を得ることができた。</p>
<p>② 時系列比較(過去3ヶ年程度の比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>※左記の理由</p> <p>○教員を対象とした研修を事業に位置付けながら展開し、現状を維持することができている。児童生徒の抱える課題は、多様化・複雑化しつつあるが、A,B,C,Dにおいて、過去3年間、目標値に近い値を保持することができている。</p> <p>○Eについては、H27は目標値に及ばなかったが、H28は目標値を上回る成果を達成した。事業の組み立て方を見直したことが成果の向上につながった。</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>○Cについては、県や国の調査結果と同程度の数値である。教員研修の充実、Q-U検査の活用、教育相談による対応など、不登校児童・生徒をなくす取組については、未然防止、早期対応の観点から事業を展開している。</p> <p>○非構造部材の耐震化率(H27実績値)について、県内の公立小中学校の平均値と本市の数値を比較すると、県平均値69.1%に対し本市は13.6%であった。本市のH28実績値が36.4%であることを考えると、本市の非構造部材の耐震化への対応に遅れが認められる。</p>
<p>④ 住民の期待する成果水準との比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>○市民アンケート調査の施策別満足度・重要度調査において、31項目中、『学校教育の充実』は満足度8位(37.5%)、重要度10位(73.1%)であった。満足度・重要度ともに上位にランクされ、満足度の推移は上昇傾向にある。年代別の傾向では18,19才の数値が特に高く、満足度が70%、重要度は100%であった。</p> <p>○A,Bの実績値は90%前後で推移しており、どちらかと言えば高い水準であると判断できる。</p> <p>○学校施設の整備状況における意識傾向を把握するため、H29の小中学校保護者アンケートに施設の整備状況の満足度をうかがう設問を追加した。</p>

#### 5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
<p>確かな学力の定着には、継続的な取組が必要</p>	<p>指定事業の改善を通して、個々の教員の授業づくり、学級集団づくりの力を高めるとともに、各学校における教育活動を充実させる。</p>	<p>○指定事業の推進にあたっては、計画的に指導助言を行い、「確かな学力の定着」という視点で、小中学校の取組を支援する。</p> <p>○「小中一貫教育」の取組を推進し、その取組と関連付けて、小学校から中学校への継続的な指導を確立していく。</p> <p>○新学習指導要領の実施に向け、教職員を対象とした研修を実施するとともに指定事業のねらいや内容の改善を図る。</p>
<p>児童生徒の諸問題は多様・複雑化し、対応が必要</p>	<p>指定事業の推進と研修会の実施によって、個々の教員の指導力を向上させるとともに、関係機関との連携や人的配置によって、学校における指導体制を充実させる。</p>	<p>○指定事業の推進にあたっては、諸問題に対応できるように教職員を対象とした研修を充実させ、小中学校との連携を強化する。</p> <p>○「小中一貫教育」の取組を推進し、その取組と関連付けて、小学校から中学校へのスムーズな接続を確立していく。</p> <p>○保育所や小学校を訪問し、捉えた情報を児童生徒への指導や諸問題の解決に生かし、小中学校を支援する。</p> <p>○特別な支援を要する児童生徒の指導について、担任をサポートし、教育活動を充実させるため、市単講師を配置する。</p> <p>○不登校(傾向のある)生徒が学校に通学できるようになるまでの支援として、教育支援センターの活動を推進する。</p>
<p>ICT(電子黒板、タブレット、パソコンなどの情報通信技術)の活用が不十分である。</p>	<p>新学習指導要領の実施を見据え、子どもたちの情報活用能力を育てるために、教科指導におけるICT活用を推進する。</p>	<p>○教職員へのアンケートを実施し、学校現場の状況を把握するとともに、ICT・機器の活用方法や取組み方などを学校、教育委員会が共に検討し、教育ICT環境整備計画として第三次教育ネットワーク整備計画を策定する(H30)。</p>
<p>学校施設の老朽化が著しい</p>	<p>日常的な修繕と大規模改修とのすみわけを明確化するとともに整備方針を設定して、効率的かつ効果的な維持管理・修繕等に努める。</p>	<p>○日常修繕 これまでの事後保全型の対応に加え、予防保全型の管理手法も導入しつつ、安全性の確保を最優先に、緊急性、必要性、経済性等の観点から維持管理に取り組む。</p> <p>○大規模改造等 劣化度の判定結果を踏まえた、改修工事の実施時期、工法、予算の規模や平準化の方策、学校規模配置の適正化の考え方など、整備方針を教育施設の長寿命化計画(H29～30策定)に盛り込む。</p>